

大自然の「文化遺産」 「雪形」

話題提供 **丸山 祥司**さん (写真記者)

日 時 **9 月 27 日 (土)** 午後 1 時 30 分～3 時 30 分 (予定)

会 場 **あがたの森文化会館 講堂・ホール** 参加費 200 円

※ 電話での事前申し込みが必要です (高校生以下は無料です)

北アルプスで、鉢伏山などの東山で、中央アルプスで、山の雪解けとともに現れる「雪形」。天候が今以上に生活に直結した切実なものだった時代から、信州の人々はその自然が生み出す現象に親しみ、そして敬い、農作業の適期や季節の変わり目を知る目安としてきました。

丸山さんが雪形をライフワークの一つにするようになったきっかけは、山岳写真家で雪形研究の第一人者・故田淵行男さんとの出会い (1970 年)。この時、田淵さんの雪形の本出版に協力し、自身もその後、日常の仕事の傍ら、雪形の撮影に力を注いできました。

雪形観察に際しては、見るだけでなく現地踏査も行っています。北アルプス蝶ヶ岳の「蝶」や鉢伏山の「鶴」の雪形は実際にどれだけの大きさなのか。例えば 2013 年に実測した「鶴」は体長 103 ㎝、両翼は合わせて 336 ㎝だったとのこと。まさに「足で稼いだ取材」でした。

丸山さんによると、県内には 76 の「伝承雪形」があり、このうち 20 は自身が地域の古老らに聞き取りを行うなど調査し、加えたものです。

「雪形は先人が山とともに生きてきた証し。その大切さを多くの人に伝えたい」と話す丸山さん。今回は、これまでに撮った写真をスクリーンに映しながら、多くの雪形が持つ物語や撮影の裏話を語ります。

丸山祥司 (まるやま・しょうじ) さんは 1944 年、塩尻市生まれ。信濃毎日新聞社写真部在籍中は長野冬季五輪、日航機墜落事故、松本サリン事件など報道の最前線で活動。信毎退職後は松本平タウン情報・MG プレス記者として「信濃の雪形」や南半球の星「カノープス」の写真などを紙面に掲載してきた。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

主催：サロンあがたの森実行委員会 共催：旧制高等学校記念館・記念館友の会

申し込み・問い合わせ 旧制高等学校記念館 ☎ 35-6226 FAX 33-9986